

平成25年10月21日

PTA会員の皆様へ

久寺家中学校PTA
会長 山田 恒久
共 育 委 員 会

石田修一先生講演会のご報告

『子どもを幸せにする人づくり』

日ごとに秋の気配が深まってまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？さて、去る10月8日に開催いたしました「石田修一先生講演会」には、49名の保護者と校長先生、教頭先生にご参加いただき、大盛況のうちに無事終了することができました。時には笑いを交えながらの先生のお話は、参加者の心を石田ワールドへと引き込み、親は子どもを人としてつくりあげていく大事な役割をしているのだと、再認識する事ができました。また、市立柏高校の学校の様子も伺うことができ、受験を控えた3年生の保護者の方には、学校の様子を知るよい手がかりにもなりました。最後に石田先生への質疑応答を予定しておりましたが、先生のスケジュールの都合上、お時間がとれなかった事をご了承ください。

講演会の内容と参加者のアンケートを抜粋し、まとめましたのでご報告させていただきます。

【講演会の内容】

石田先生は、昭和53年に音楽教師となり、現在は柏市教育委員会学校教育部参事及び、柏市立柏高等学校吹奏楽部総監督に就任されておられます。受け持ってこられた吹奏楽の部員は2000名以上。また、音楽の教師として1万人以上の教え子に携わってこられました。その経験から、思春期の子ども達とどう向き合っていけばよいか、子どもを幸せにするためには、どのように親が関わっていけばよいかを、ご自身の経験談をもとに、34項のポイントを教えていただきました。

●思春期の子どもへの向き合い方

- ① 自分が中学生の時を思い出す
- ② 自分が親から言われて（されて）嫌だったことをしない
- ③ 言われて（されて）嬉しかったことをする。
- ④ 遠くから見守る
- ⑤ 「ありがとう」「ごめんなさい」を子どもに対して自然に言う
- ⑥ 親が楽しい毎日を過ごす（少なくとも子どもから見て）
人生を楽しむ、感謝する心を持つ、他人を非難しない

●子どもを幸せにするために（34項より抜粋）

- ・子どもの将来の決め方（順番どおりに考える事が大事！）

- ① 何をしている時が一番楽しいか？
 - ② その楽しいことが仕事として世の中に存在しているか？
 - ③ その仕事が社会に認知されているか？（人々に尊敬される）
 - ④ その仕事は生涯通して続けることができるか？
 - ⑤ その仕事によって普通の生活をするお金がもらえるか？
- ※ お金が最初にくると不幸になる。好きなことに全力投球！

- ・人の幸せは「感謝の心」を持っている時にある。
「ありがたい気持ち」が幸せ。「他人に何かしてあげた時」も幸せ。
他人にしてあげたことはすぐ忘れた方がよい。してもらった事は一生忘れない。

- ・勉強は誰のためにするの？
自分のため→NO 人のためにやるからこそやり遂げられる（例）野口英世

- ・「人生の選択、苦と楽どちらを選ぶか」
自ら飛び込んだ「苦」は「苦」ではない。「苦」は半分になる。

- ・小学生の時から「がまんすることを教える」
大人になってからも「自分の希望どおり」にならないことがあるということ
を教え、それを克服することを教える。（手伝う）

【参加者からの声】アンケートより一部抜粋

- ・「人から感謝されることではなく、人を感謝する人、人に感謝できることに幸せがある」という先生ご自身の体験にからくる言葉に感動しました。
- ・自分と照らし合わせたり、子どもの現状と照らし合わせて考え、一喜一憂でした。目の前の成績だけで評価してはいけないと感じました。
- ・子どもが親に反抗し、生意気な言葉を発したら「やった！」と喜んでいればいいんですという先生の言葉が心に残った。
- ・自分の態度を見直す良いきっかけを頂けた講演会でした。仕事を休んで聞きに来てよかったです。
- ・「何をしている時が幸せか？」子どもと一緒に考えたいと思います。家庭はくつろげる場、子どもの頑張りを素直に喜んであげられる親でいたいと思いました。
- ・とても為になる内容でした。子ども達にも講演をしていただきたいと思いました。

※ 今回参加できなかった方、もっと先生のお話が聞きたかったという方は、先生が執筆された本を是非お読みください。売り上げの一部は、市立柏高校吹奏楽部の運営資金となります。

「心をひとつに響かせる！市立柏吹奏楽部」二見書房より出版 石田修一著